

■ 「平成21年度 建設施工と建設機械シンポジウム」開催報告 ■

-----優秀論文賞6編、優秀ポスター賞2編を表彰-----



社団法人日本建設機械化協会主催による「平成21年度 建設施工と建設機械シンポジウム」が、平成21年11月10日(火)～11日(水)の二日間にわたり、東京都港区の機械振興会館において国土交通省、経済産業省、(独)土木研究所、(社)土木学会、(社)日本機械学会、(社)地盤工学会、(社)日本機械土工協会、(社)日本建設機械工業会、(社)日本測量機器工業会の後援のもとに開催された。

今年の発表は、国土交通省が普及・推進を図っているICTを活用した情報化施工に関する適用事例・開発研究、社会情勢を反映した合理化・コスト縮減や環境・省エネに関する内容のものが多かった。

論文は41編、ポスターセッションは9編の応募があり、5分野・3会場で発表され、活発な質疑が行われた。論文は1次選考として厳正に査読・審査し、

当日の発表内容の2次選考の結果、6編に対し優秀論文賞が、またポスターセッションでは同じく2編に優秀ポスター賞が授与された。

◆優秀論文賞◆

(1) 油圧ショベルにおける低燃費性能開発

○南條孝夫、今西悦二郎 (株)神戸製鋼所、沼田直剛 (コベルコ建機(株))

シミュレーションシステムを利用した解析技術による燃費改善への利用が優れていることが評価された。

(2) 2層同時施工可能なアスファルトフィニッシャー新型機の開発

○関口 峰、平野 晃、藤枝隆行 (大成ロテック(株))

輸送・環境対策等の従来機の課題について、的確にとらえて対応した内容を分かりやすく説明したことが評価された。

(3) 多段載荷累積変位法による地盤診断法の開発と適用事例

○長澤正明、川崎廣貴 (清水建設(株))

従来のFWDに対して格段にスピードが向上するなど、優れた技術開発である点が評価された。

(4) 環境に配慮した中高層ビルの解体工法の開発

○飯塚 満、吉川泰一朗、水谷 亮 (鹿島建設(株))

作業を平準化し、粉塵、騒音、リサイクルなどの環境に配慮した新たな解体工法を確立した点が評価された。

(5) パンプ型ICタグを用いた建設施工現場における協調的な情報システムの提案

○矢吹信喜 (大阪大学)、Phatsaphan Charnwasununth, Tanit Tongthong (タイ・チュラロンコン大学)

施工管理にICTを導入して、生産管理のミスを低減するなど、今後の展開が期待される点が評価された。

(6) 情報化施工における転圧管理システムCISの適用事例について

○小葉はるな、眞壁 淳 (酒井重工業(株))、上野健司 (前田道路(株))

加速度応答に関する事例をよくまとめており、今後の適用の可能性を示した点が評価された。



◆優秀ポスター賞◆

(1) ハイジュールネット(高エネルギー吸収型落石防止柵)

○正木 聡 (神鋼建材工業(株))

エネルギー吸収能力が高く有用な技術を、ビジュアル的に見やすく作成し、説明も分かりやすい点が評価された。

(2) 繊維質固化処理土の変形・強度特性に関する数値シミュレーション

○今田直希 (東北大学)

説明が分かりやすく、視覚的にも良いポスターと言え、学生のポスター作成の模範的な点が評価された。

◆講演、基調講演、施工技術総合研究所研究報告、機械部会・建設業部会・標準部会活動報告◆

下記の講演、基調講演を行うとともに、本協会の施工技術総合研究所の研究発表および標準部会・機械部会・施工部会の活動報告がなされた。

講演 演題:「地雷処理に貢献する建設機械」
講師 コマツ: 柳樂篤司、日立建機: 生田正治の各氏

基調講演 演題:「実務者に聞く情報化施工の実際」
講師 建山和由、Mr. Ryan Forrestel、荒井猛、田口佳嗣、太田一広、上石修二の各氏
総合司会・座長 福川光男、植木睦央の各氏



景気回復の見通しが不透明にも関わらず参加者は約250名に達し、活発な質疑が行われ成功裡に終了した。